

生涯学習 つうしん

国見町教育委員会生涯学習課
 (親月台文化センター)
 ☎(585)2676 FAX(585)2707
 E-mail shogai@town.kunimi.fukushima.jp
 https://www.town.kunimi.fukushima.jp/site/kangetsudai/

リュッケじかん LYKKE 時間

第19話「新しい生活様式の中で」

新しい生活様式に少しずつ慣れてきましたが、いつまで続くのかという不安もあります。“リュッケ”の国デンマークやフィンランドの人々も同様に、困難な日々を過ごしています。ただ、北欧の人たちはこのような状況と上手くつき合うために、意識して取り入れていることがあります。それは、何かに没頭することです。感染症対策で、それどころではない状況でも、頑張って没頭する時間を捻出するといいます。編み物、読書、散歩…没頭するものは人それぞれです。このような時間のもち方は、安心や活力を生み出すヒントになるかもしれません。

フィンランドの友人から届いた一枚何枚も編んで病院に寄付するそう

文:柴田千賀子(国見町出身の保育研究者。仙台大学准教授)

親月台文化センター常設展示
石原コレクション 作品紹介 Vol.21

題名「少女像」
 作家 ジル・サックシック
 紙・鉛筆
 各260×205mm



二学級合同学習「町長講話」 国見町の歩みについて学ぼう



国見町の歩みについて説明する太田町長

阿津賀志学級・成人学級・女性教室合同の三学級学習「町長講話」が8月19日、親月台文化センターで行われました。

太田久雄町長は、国見町のくらし、安全安心、教育、健康福祉、まちづくり、東日本大震災や自然災害への対応など町としてのこれまでの取り組みを振り返りました。また、新型コロナウイルス感染症対策については、感染防止と経済回復を



講話を聞く学級生

両立させながら交流連携を図ることが大切であることなどの現状や将来の展望について語りました。

二学級合同学習「古閑裕而と内山金子と古閑メロディー」 古閑裕而の魅力に迫る

阿津賀志学級・成人学級・女性教室合同の三学級学習「古閑裕而と内山金子と古閑メロディー」が9月15日、親月台文化センターで行われました。

地元の古閑裕而研究家の齋藤秀隆氏とピアノ伴奏の相原節子氏を講師に迎え、学級生は、朝ドラ「エール」ではわからない、裕而と妻金子のなれそめや偉大な作曲家になるまでを知ることができました。また、多くの作曲



古閑メロディーの魅力は

の中から、福島にちなんだ曲などを手拍子をしながら聞きました。古閑裕而作曲、白鳥省吾作詞の「国見音頭」を婦人会とみんなで踊り、フィナーレを迎えました。

国見っ子わんぱく広場 からだをつかって楽しく遊ぼう！

第4回国見っ子わんぱく広場が9月12日、町レクリエーション協会(鈴木道代会長のみなさんを講師に迎え、からだを目いっぱい動かす遊びに取り組みました。

平均台を渡ったり、新聞紙を丸めて的に当てたり、色々なからだの動きを楽しんで体験しました。素早く動ける子も、なかなか上手くいかない子も、それぞれの



みんなで楽しくレクリエーション

グループの中で励まし合って楽しく活動しました。

少年仲間づくり教室「絵手紙教室」 家族に絵手紙を送ろう

「あすなる絵手紙の会」のみなさんを講師に迎え、少年仲間づくり教室の第3回活動が8月22日、親月台文化センターで行われました。

一生懸命仕上げました

教室生は、季節の野菜や花、好きなイラストなどの題材を手元に置き、講師のアドバイスを受けながら思い思いの絵を描きました。

みんなで相談しながら楽しく取り組み、きれいな絵手紙を完成させようと一生懸命に製作していました。絵の具で色を付けた後は、家族や離れて住んでいる祖父母に宛てたメッセージを添



それぞれ思いを込めてポストに投函

え、心温まるオリジナルの絵手紙が完成。最後は全員でポストに投函しました。

子ども司書活動 新たな取り組みがスタート



町の読書リーダーとして活躍

国見小学校1年生から3年生を対象とした子ども移動図書館が9月9日、10日、15日に国見小学校で

行われました。

2学期からの新たな取り組みとして、子ども司書が移動図書館に参加し、貸出処理や本を借りに来る児童のサポート、本の整理などを行いました。また、どんな本を選んでよいか迷っている児童に寄り添い、アドバイスをする姿も。

子ども司書は、今後も町の読書リーダーとして積極的に活動に取り組みます。

私のお薦めの一冊⑤ 県北中学校 講師 宮下 純

「頭がいい人はなぜ、方眼ノートを使うのか? (図解版)」
 高橋政史著 かんき出版



この本によれば、頭がよくなるノートとは、「見るからにスッキリ美しい」使う

ペンには3色以内「余白が十分ある」などだそうです。

県北中1・2年生の社会科学の授業では、『ノート』を3分割し、学習課題↓事実↓解釈↓要約↓まとめの流れでノートを取る方法を、次の図のように実践しています。

この本は、学生のノートづくりだけでなく、大人の行動にも活用できるようです。小中高大学生も、大人の方も、ぜひこの本を手にとってみて、実践してみたいかがでしょうか。

学習課題 (めあて)	まとめ 3行 (3つのポイント) 以内で書く
事実の欄 ・学習内容 ・主に板書の内容	要約の欄 ・前後関係、理由、根拠 ・結論 ・わかりやすく言うこと ・自分なりにまとめる
	解釈の欄 ・気づいた点 ・分かった点 ・疑問点

次回は、県北中学校3年生文化委員長の中條紗音さんです。